

第 3 回 第 6 期中原区区民会議 課題調査部会 会議録

日 時：平成 29 年 2 月 16 日（木）午後 2:30～4:30

場 所：中原区役所 5 階 505 会議室

出席者：井上部会長、梅原副部会長、伊藤委員、内田委員、児玉委員、田邊委員、
関口委員、中森委員

【委員 8 名】

高橋副区長、村田危機管理担当課長、鈴木企画課長、中野職員

【事務局（中原区役所） 4 名】

岩下【コンサルタント（株カイト） 1 名】

1 開会

開会宣言

資料確認

会議の公開について

2 会議録確認委員の選任（進行：井上部会長）

これまでの会議と同様に「部会長・副部会長を除いた名簿順で会議ごとに 1 名の委員を指名」の原則に基づき、関口委員が勤めることとなった。

3 検討テーマ「災害に強い、ユニバーサルなまちづくり」に関する調査検討について

（進行：岩下（コンサルタント））

【意見交換】

■サッカードリーム教室への体験型訓練の導入について

井上部会長 サッカードリーム教室の趣旨は「子ども達に夢を持ってもらう」こと。良い思い出を家に持って帰ってもらうこと第一の目的である。真面目にやることももちろん大切だが、何かひと手間加えて、ただの防災訓練ではなく、楽しくできればと考えている。参加した子どもとその保護者に「防災」が良いイメージで心に残るようにできれば良いと思う。

事務局 これまでの議論の中で、「防災意識のある程度高い方を、担い手としてどう育てていくか」という視点と、「参加した経験の無い方々や新しく中原区にいらした区民の方々に、いかに防災訓練などに参加していただくきっかけをつくっていくか」という視点をいただいた。サッカードリーム教室に参加する方は、防災に関心をもっている方とは限らないが、新たに関心をもってもらったり、「防災ってこういうことか」「防災っておもしろい」と思ってもらえれば成功ではないか。

区では来年度に計 2 回、総合防災訓練の実施を検討している。一回は「関心をもってもらうためのきっかけづくり」、もう一回は「関心の高い方々を集めて避難所運営をやる」のも方法だと考えている。今回区民会議の皆さんからいただいた意見をぜひ取り入れ、中学生や地域の方々に参加してもらいたい。

中原区の特徴としては、成長著しく、新しい方々が入ってきている面と、従来のま

ちなみが残っていて古くからの住民がいる面の両方がある。

国の調査機関による首都直下型地震がこの 30 年の間に 70%の確率で発生するという予測があり、いつ起こっても不思議ではない。昼か夜か、いつだかわからない。これまでの取組はどちらかというと、関心の高い方々ばかり集めてやってきたかなという反省がある。

資料で紹介した幸区の総合防災訓練だが、何をもって「総合」としているのか担当者に聞いてみたところ、メニューが多彩だからということではなく、「自助・共助・公助」の精神を持ち、みんなで取り組める内容だからということだった。

関口委員 サッカードリーム教室への参加者はサッカーを目的に集まるので、防災はきっかけづくりくらいで、あまりたくさん時間をかけられないのではないか。「サッカーかと思って来たら防災訓練だった」と思われてしまったら違う主旨になってしまう。

井上部会長 イベントは朝 10 時に開場、11 時に開会式があり、14 時半までの約 3 時間半がプログラムの時間となっている。14 時半には選手が来場し、トークショーを行って解散になる。3 時間半はずっとサッカーをしているわけではなく、グループに分け、各グループがグラウンドでサッカーを行うのは 45 分程度。その他の時間は空き時間となっており、サッカーに関連するアトラクションなどを提供している。ここに防災の体験ブース、アトラクションを入れ込むのが一番良い形ではないか。例えば仮設トイレの組立、煙中避難体験、土嚢運びなどに、競争性やゲーム性を持たせるなど、工夫すれば良いと思う。その時はただのゲームだと思っていなくても、実際に災害が起こった時に「これはやったことがある」と思い出してもらえれば良い。

川崎フロンターレとしてもただ楽しいイベントを行うのではなく、地域性を持たせることで、郷土愛や更なるチームへの愛着などに繋がると考えている。場所もいっぱいあるので、充分実現可能だと考えている。

田邊委員 救急車や消防車などの車両展示もできれば、好きな子どもは喜ぶのではないかな。また災害時のアルファ米を配布して、調理を体験してもらうなども良いと思う。

井上部会長 いつも食事は売店を出しているが、そうした取組もよさそうだ。こちらも助かるかもしれない。

中森委員 非常食は家庭で備えられるものの紹介などもできると良い。

伊藤委員 非常食の簡単なつくり方が紹介できると良い。

中森委員 子どもにとっては遊びながら、体験し、学べるのが最も思い出、印象に残ると思う。またいくつかのブースを回るスタンプラリー形式にすれば、自分が行きたいブースだけでなく、よりたくさんブースを回っていただく動機づけができる。

事務局 すぐに防災に繋がるのではなく、関心を持つ入口として考えると良いと思う。

伊藤委員 私の地域で「煙中避難体験」をする時には「本当の火災の時は熱い煙がくるから、それを吸わないようにすることが重要」であり、「ハンカチなどで口元を覆う様」に必ず指導している。ただ体験させるだけでなく、そういった基本を教えることが大切だ。熱い煙で喉を火傷してしまったら、治療法がない。

井上部会長 消防がやっている体験はどちらかというと、視界の悪さのみの体験で終わってしまうことがある。

伊藤委員 実は煙を吸ってしまうかどうかは、本当の火災では命に係わる問題だ。

児玉委員 口を覆うには濡れタオルが一番良い。そうしたことを実際にできると良いと思う。また大抵の煙中避難訓練は地面が平らな所で行われるが、実際の火災の際は足元が平らとは限らず、様々な障害物やでこぼこがあると考えられる。

井上部会長 実際の体験により近い形でやれると良いが、難しい面もあるのか。例えば口を覆わずにはいられないような状況になれば良い。

田邊委員 実際に訓練で使われているのは無味無臭の煙。

井上部会長 体に害がない範囲で、何か工夫できると良いと思う。

■ターゲットや更なる展開について

内田委員 今回は、きっかけづくりをまず考えるということ。

伊藤委員 自分の住んでいる地域の町会や避難所を知らない方もいる。

井上部会長 例えばそれをクイズにしてはどうか。地図から自分の地域の避難所を探す出題。うまくやれば意外に楽しいものになりそうだ。知らない方に知ってもらう良い機会となると思う。

梅原副部長 関心が無い人に対してのきっかけづくりで考えると、子どもについては学校などを通じて何か行えばできると思う。集めるのが難しいのは関心無く、地域ともつながりの薄い高齢者だ。子どもを通じた取組を行えば、その保護者もある程度引き出すことができる。高齢者世代はいつも出てくるのが同じ様なメンバーで、なかなか新しい方は出てこない世代だ。

内田委員 機会をとらえて後でも話せると良いと思う。

井上部会長 サッカードリーム教室でまずやってみたブースで良かったものを、他の地域の会合などでも展開していけると良いのではないか。老人会などの会合でも構わない。ただ、老人会も参加メンバーが決まっているのか。新しい方が集まるのはどんな場が良いのか。

伊藤委員 いこいの家での会食会などか。

児玉委員 介護認定を受けた方、一人暮らしの方などが集まる。ただそれほど新しい方は来ないかもしれない。

■避難所運営の体験について

井上部会長 避難所運営ゲームはどのくらい時間がかかるのか。

伊藤委員 結構時間がかかる。

事務局 先日も井田の地域で実施した。その時は 30～40 分くらいでやった。また 2 月 26 日にも、平間中学校で実施計画がある。後で資料を提供する。

幸区の総合防災訓練のプログラムには「避難所開設訓練」もあった。何も無い状況から、「さあ避難所をつくってみてください」というもので、「まず受付が必要」「食糧はここに置こう」「一人このくらいのスペースが必要だ」など話し合いながら作業する。ただしこれは、特に意識の無い方には全く面白くないプログラムかもしれない。しかし最も現実近く、非常に重要な訓練だ。

井上部会長 避難所の現実を知ってもらうには一番よいかもわからない。

伊藤委員 複数町会がある避難所だと、なかなか足並みがそろわないという悩みもある。

仕方がないので、単独町会だけでも、避難所を理解し、施設配置などができる人をつくっておこうと頑張っている。町会関係は避難所運営ゲームをどんどんやるべきだと思う。

井上部会長 実際にどのくらいの時間でできるのか。

伊藤委員 いくらでも時間はかけられる。

井上部会長 最短でどのくらいでできるか。

事務局 井田での実施は30分くらいだった。本来の避難所運営は災害が発生した時間によっても状況が違ったり、時間の経過と共に、避難者が増えたり、寝る場所などの確保が必要になったり、どんどん変化していくものなのだが、なかなかそこまでは30分ではできない。時間をかけた方が内容は充実する。

井上部会長 入口だけでも体験できるやり方を確立できないか。少しでも経験者を増やし、その方が避難所に来て、経験を活かしてアドバイスや自ら動くことができれば良いと思う。

内田委員 「お世話になるより、お世話する方になろうよ」という呼びかけと共に実施できると良い。

事務局 幸区の総合防災訓練は実に簡単・合理的なやり方で、あいさつを30分やって、ヘリコプターが来て手を振り、その後1時間半訓練をやって、11時には全て終了した。「防災ショー」と言った方が良いかも知れない。住民が悩んだり、考えて取り組むという形ではなかった。行政が全て手配してその通り動く訓練だった。それはそれで意味があるが、実際の災害では行政がすぐには来られず、その意識付けも必要かと思う。

内田委員 資料にも出ている山村武彦氏の中原区での講演を私も聞いた。「互近助」の言葉も印象的だったが、講演のスライドの中に避難所運営のメンバーが笑っている写真があった。笑いながら運営ができています。そういう形を目指すことができれば良いなと思った。もう一回聞いてみたいと思わせる講演だった。

コンサルタント 避難所開設訓練を子ども向けにアレンジすることも可能かもしれない。例えば「避難所には何が必要だと思う？」とまず子ども達に10分で考えてもらい、その後10分で「実は避難所に必要なことはこんなものがあるんだよ」と話をして、それを保護者にも一緒に聞いてもらい、そういうプログラムもありえると思う。

内田委員 何かゲーム感覚でできると良い。

■外国人市民との災害時のコミュニケーションについて

井上部会長 外国人の方について、何かできないか。

中森委員 2月21日に国際交流センターで、外国人市民向けの防災訓練が計画されている。

井上部会長 例えば、中原区の中でインド人の方が多いのだとしたら、そうした方々に集まってもらい、その方々と一緒にコミュニケーションを取りながらやってみるといようなことも必要だと思う。地域には外国人の方もいること、一緒に協力しなければいけないことを認識できるような企画があると良いと思う。

中森委員 昨年8月に川崎市内の総合防災訓練が多摩区で開催されたが、会場となった稲田中学校に防災に関心のある外国籍の方にも集まってもらい、避難所体験をした。

日本語が実際には出来る方も、全くできないという設定で参加して、受付では事前に用意したコミュニケーションカードを用いて、指さしで確認をしたりというような体験をした。開催後には不便だった点、改善が必要と思われた点などについてアンケート調査も行い、結果がまとめられている。全く日本語ができない方は受付でまず苦勞したり、トイレの使い方がわからなかったり、日本語だけでなく絵の表示があると良かったり、そういうことが体験を通じてわかった。

伊藤委員 避難所の倉庫に備品としてそうした掲示のラミネート版が用意されていると良い。

井上部会長 そうしたマークを考えたりする企画も良いかも知れない。

事務局 ピクトグラム。国際基準で決められているものなどは、勝手に考えてしまうのではなく、それを使うのが良いと思う。

井上部会長 上手く活用しながら、絵などを使ったコミュニケーションが体験できると良いと思う。

内田委員 親子でサインを考えてもらう。それを集めたら面白そうだ。子どもは純真な発想で、いろいろ考えてくれそうだ。

中森委員 日本語で書かれているものを読めても理解できない方もいる。「やさしい日本語」での表記も重要だ。中原区は川崎市内で 2 番目に外国人の多い区で、本当にいろいろな国籍・言語の方がいる。全ての言語で資料をつくらうとしたら、とても大変だ。既存の資料を「やさしい日本語」に変えていくことも必要だ。

■その他の企画、サッカードリーム教室での配置など

井上部会長 中央の芝生のグラウンドはサッカーで使うが、その周辺には陸上のトラックがある。その内、半分程度はサッカー関連のアトラクションや関係者の動線などで使えないが、残り半分は、防災体験などのブースに使用可能だと思う。観客席も空いている。メインスタンドはお客さんの荷物置場に例年使われているが、ゴール裏などは空いている。全体の一体感を考えると陸上のトラックを一周しながら、全てのアトラクションや体験ができるような形が良いのではないかというイメージを持っているが、企画の内容によっては、トラックからは離れるが、暗くできる場所や、屋根があって雨に濡れにくい場所もある。レイアウトについては、実際に相談しながら進めていければ良いと思う。

梅原副部長はボーイスカウトだと伺っている。何か災害時に役立ちそうなサバイバル技術、例えばナイフの使い方、ロープの結び方などを教えていただくことは可能なのではないか。やはり「自助」をキーワードの一つにしているので。

梅原副部長 可能だと思う。

■中原区の総合防災マップについて

伊藤委員 地域毎の避難所が色分けなどで分かると良いと思う。

事務局 どこが避難所なのか、がけ崩れの危険性があるのはどこか、どこに病院があるのか、などは地図で見るとより具体的にわかるかと思う。

伊藤委員 避難所の場所が学校だということは知っていても、学校の場所がわからなか

ったり、自分の町会がどこかわからない方もいる。

コンサルタント やはり地域レベルの地図が重要だ。

中森委員 「備える。かわさき」には六ヶ国語やイラストがたくさん入ったバージョンがある。各区で出されているハザードマップも六ヶ国語版が作成され、国際交流センターに置いてある。こうした資料との関係はどうなるのか。

事務局 「備える。かわさき」だけでなく、土砂崩れのマップや洪水マップ、液状化など様々な資料を一括化する。更には自分の地域の記入できる地図がある。できればスポンサーを付けて、費用をかけずに製作できるように調整している。

井上部会長 製作費などは実際どのくらいかかるのか。

事務局 全戸配布で考えると普通にやれば数千万単位の費用が必要となると考えている。中原区で検討していたら、中原区だけでなく、全市版を作れないかというような意見も出ている。今までバラバラだったマップが1冊になっていけば高齢者などにも使いやすいという発想だ。

児玉委員 確かに年寄りや若い人が教えてくれるからといっても、スマホなどはなかなか使いこなせない。教えるのにも時間がかかる。

中森委員 ちょうど今日と明日、とどろきアリーナで国際環境技術展が開催されており、その中の参加企業が製作したという、防災ブック「東京防災」を希望者に配布していたので、もらってきた。

コンサルタント 本来は販売されているもの。

事務局 1冊140円という安価な値段だったかと思う。

中森委員 笛も一緒に配布されていた。

事務局 ライトや三角布などの防災グッズと一緒に配布するケースも多い。

児玉委員 区民祭でも防災グッズを貰ったことがあるがいろいろなものがセットで入っていた。

コンサルタント 「東京防災」には「簡易コンロのつくり方」、「寒い時に体を温める方法」などのサバイバル系の情報も掲載されている。

「川崎市に大地震が起きた日」という資料は良い。大地震の際にどのような事が起こるのか、3日経ったら、1週間経ったらどうなるのか、絵で具体的にイメージしやすい。みんなに見せたい資料だ。

事務局 今年1月にできたばかりの資料で、4階資料コーナーにも設置してある。

内田委員 絵が多いのは良い。危機感をあおりすぎるのは良くないが、備える意識をもってもらいたい。

梅原副部長 例えば洪水マップを見る時には、まず自分の家が浸かるかどうかを見る。

事務局 必ず見るところ。その次に見るのは自分の職場か。

中森委員 東京都では災害時に帰宅するためのルートを記したマップなども作っている。

事務局 帰宅支援マップ。

井上部会長 良い事例はどんどんマネして、いいところ取りをすれば良いと思う。「東京防災」は大きさがハンディサイズのところも良い。

コンサルタント 何を主眼とするかで、適したサイズも異なってくると思う。携帯性を重視すると小さ目のサイズが良いが、地図や書き込みを重視するともう少し大きなサ

イズが欲しいところだ。

中森委員 できるだけ絵を多くし、文字は少なくできると良い。「備える。かわさき」の六ヶ国語版や簡単な日本語版を作成した時は、オリジナル版よりかなり文字や情報を減らした。そのままでは難しすぎる情報がたくさんあった。

内田委員 いかにも簡単に伝えるかということが重要だ。「立入禁止」ではなく、「はいらないで」と書いて、×印などを添えた方が、外国人の方にはわかりやすいかもしれない。

中森委員 今、川崎市には120ヶ国以上の国々の方々が住んでいる。

井上部会長 120ヶ国はすごい。

中森委員 最近は新城の辺りを歩いている、変わった言語、聞いたことのない言語で会話している方々と出会うことがある。それだけいろいろな国の方々が増えてきている。私が聞いたのはインドやネパール、ベトナムの方々などが多いと聞いた。

田邊委員 字はもう少し大きくしてほしい。

関口委員 平常時はA4版サイズの資料で良いと思う。ただし、いざという時に持ち出すには大きい。地図であれば、折りたたむ事もできる。A4サイズでしかも分厚いとなると持ち出すには不向き。非常時に使うのであれば、A4は大きすぎると思う。

中森委員 これが「備える。かわさき」のやさしい日本語の最新版だが、絵も多く入り、わかりやすくなっている。

コンサルタント 少しずつ改善されてきたということか。

梅原副部長 避難所という言葉、概念自体もうまく伝えるのが難しいかもしれない。

コンサルタント 他ヶ国語表記までは難しいにしても、やさしい日本語の表記はどんな資料でも欲しい。

田邊委員 「川崎市に大地震が起きた日」と同じサイズ(B5)ではどうか。小さいと、文字も小さくなってしまう。

コンサルタント いろいろな意見があって難しい。B版は昔よく使われていたサイズで、最近はA版が一般的ではないか。

井上部会長 ではなぜ「川崎に大地震が起きた日」がB版かということ、やはり他と差別化するためだったのか。

■まちかどの案内表示、その他について

伊藤委員 町会や避難所を知らない方々のためには、電柱を活用した掲示など何かできれば良いかと常々思っている。避難所の案内はもっとあると良いと思う。以前はあったように思うが、なかなか無くなってしまった。

コンサルタント 電柱は権利関係や設置費用、東京電力との折衝があると聞いた。

事務局 私が昔担当していた時は、東電広告という会社を通じて、1枚当たりいくら。10年間というような契約をしていた。しかし費用を税金だけではまかなえないので、スポンサーを募集して、避難所などの案内を入れていくといった事例などがある。

内田委員 「無事ですカード」というのは高津区だけの問題だったのか。

コンサルタント 高津区でも全戸に配られたのではなく、集合住宅向けの防災の資料を作成した際に製作され、一部地域に配布された。

内田委員 中原区の総合防災マップにも入れても良いと思う。切り離したり、シールにしたりなどの形式が考えられる。

井上部会長 (高津区で製作された「無事ですカード」は) マグネットになっているようだ。

コンサルタント 高津区の場合はマグネットとして制作した他、マンション防災の冊子の中の1ページとしても入っていたようだ。

事務局 実際の災害の際には、避難所では体育館の外側などに掲示板が設置され、そこにポストイットなどで、安否確認や探し人などの掲示がされることが多いようだ。

梅原副会長 中原区もマンションは多いので、高層住宅向けの防災も重要だ。

コンサルタント マンションの様な環境でこそ「無事ですカード」は生きてくる取組かと思う。

伊藤委員 まちかどに避難所の掲示はとにかくもっと欲しい。災害発生時に掲示するものもあるようだが、普段からもっと掲示している必要があると思う。

内田委員 小学校や中学校が避難所になるという認識はかなりの方が持っていると思う。ただ、それ以外の広場にも人は集まってくると思う。例えば国際交流センターは避難所ではないが、人が集まってくると思う。公園などにも集まってくるが、特に施設があるわけでもなく、何もできない。

中森委員 国際交流センターは大災害の発生時には多言語の情報発信センターになると聞いたことがある。その機能を担う人達の分の備えはありますが、近隣の人たちが避難してくることに對する備えはない。5年前の震災の際も国際交流センターに避難して来た方は近くの小中学校を案内したと聞いた。

事務局 中原警察署の建物等が壊れた場合は、国際交流センターが警察の機能を担うことになっている。

中森委員 行政窓口でのPRだが、クイズ形式などで発信できれば、目に留まりやすくなり、内容がより覚えやすくなるのではないかと思う。

事務局 電車の小さなモニターでよくある形のようなイメージ(トレインチャンネル)か。

中森委員 そうだ。見た方も考えると思う。どうやったら見てもらえるのかと考えていたら思いついた。

内田委員 福岡県の「こどものための防災マップ」は素晴らしい。地域でも使えそうだと思う。

4 その他(事務連絡)

次回は提案の最終まとめを行う。

次回は井上部会長が欠席のため、梅原副会長が代理で進行を務める。

次回の会場、日時等を再確認した。

5 閉会

(以上)